

1

新型コロナウイルスに感染すると・・・

- 新型コロナは、重症化する可能性のある新型のウィルス感染症。
- 実際には、多くの方は風邪症状のみ。自然に抗体ができて治癒する。
- しかし20%程度が7日前後で悪化、「新型肺炎」を発症する。
- 死亡率は2%。しかし高齢者の場合、死亡率は約15%とかなり高い。

症状出現

7日

30日

80%は風邪症状のみで自然治癒。

「今回の風邪は少し長引くなあ・・・」という感じ。
上気道症状と発熱、倦怠感、人によっては消化器症状も。
症状が軽い、無症状の人も少なくない。
7日くらいで自然に軽快する。

20%が重症化→新型肺炎に

強い風邪症状や発熱が4日以上続く、
または強い倦怠感や息苦しさ（呼吸困難）が
出現することがある。

この場合「新型肺炎」として入院治療を行う。
ただし、治療薬はない。

人工呼吸・体外循環などで命をつなぎ、
回復を待つ。

ただし、武漢のデータでは、
80代の死亡率は14.8%。
重症化するとかなり厳しい。
高齢者を感染から守ることが大切！

2%が死亡



2

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の治療

- 風邪症状だけの場合は対症療法で経過観察。
- 病院は受診しない。除外診断はできない。治療薬はなく、重症化の予防もできない。
- 「新型肺炎」が疑われる場合は、相談センターに連絡、指定病院の受診を検討する。
- 重症化した場合、どこまでの医療を希望するか、あらかじめ考えておくことも大切。

① まずは病院に行かず、 自宅・施設で経過観察

② 状態が悪化する場合には 指定病院にて入院・集中治療

発熱（37.5度以上）・上気道症状があれば
主治医に連絡。指示を仰ぐ。
基本的には「風邪」として対症療法＋経過観察。
病院を受診しない。

【重要！】病院を受診すべきでない理由

- PCR検査は「感染していない」という証明はできない
PCRの感度は高くない（結果が陰性でも罹患していない証明にならない）。検査結果に関わらず新型コロナという前提でケアをする。
- 早めに受診しても重症化のリスクは変わらない
当面は経過観察、自然治癒を待つしかない。
重症化の兆しがあったら、病院受診を検討する。
- 病院には本物の感染者が多数来院している
実際にはただの風邪だったのに、病院で本当に感染してしまう、
ということが起こる危険がある。
- 病院の機能がパンクする危険がある
病院での治療が必要な人を受け入れられなくなる危険がある。
本当に具合が悪くなったときに助けてもらえない。

入院

集中
治療

体外循環
人工心肺

- ①強い風邪症状や発熱が4日以上続く
（解熱剤を飲み続けられないといけない、など）
- ②強い倦怠感や息苦しさ（呼吸困難）

このような場合、速やかに主治医および
帰国者・接触者相談センターに相談し、
病院受診を検討する。

しかし、要介護高齢者は、重症化すると
予後の見通しはかなり厳しい。

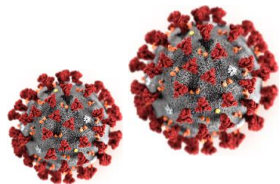
多くの要介護高齢者は、
集中治療に耐えられない。
体外循環はほぼ不可能。

どこまで治療を希望するか
あらかじめ考えておく。
他の病気と同じように、
積極的治療をしないという
選択肢もある。

3

高齢者施設を「安全地帯」に！

- 施設を地域から隔離する。居住スペースは「安全ゾーン」に。
- 「安全ゾーン」には、外からウィルスを持ち込まないように細心の注意を払う。
- 特に重要なのは帰宅時（来訪時）の手指消毒と手洗い、外来者のコントロール。
- 体調の悪い職員の出勤停止を徹底する。



感染拡大期の面会は原則禁止

どうしても必要な場合にも、
居住スペースには入れないようにする。

①持ち込まない！

施設の入りで
確実な手指消毒とマスク装着



安全ゾーン



医療機関には感染者が
受診している可能性がある。
感染のリスクが高い。

病院受診をなるべく控える

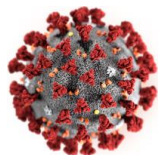
病状が安定している人は処方のみ。
病状が不安定な人は一時的に在宅医療に。

②もらいに行かない！

人とすれ違う程度の
近隣の散歩などは問題なし！

③症状のある職員の出勤停止を徹底

37.5度以上の発熱または上気道症状のある職員は、症状
消失から24時間を経過するまで出勤停止を徹底する。



医療法人社団 悠翔会
YUSHOUKAI MEDICAL CORPORATION